

(様式第3号の1)

博士（甲）論文審査及び最終試験結果報告書

2021（令和3）年 / 月 / 8日

研究科教授会 殿

論文審査及び最終試験委員

主査 庄山 茂子 印

副査 森田 健 印

副査 小崎 智照 印

副査 安部 内 印

論文審査及び最終試験の結果を下記のとおり報告します。

記

専攻及び課程	学籍番号	氏 名
人間環境科学研究科 環境科学領域	19dhe001	松 下 美 紀
審 査 論 文 題 目	歴史と伝統に基づく都市における夜間景観照明 の実践とその考察	
論文審査及び 最終試験結果	(合) 否	
博士論文提出資格取得日	2020（令和2）年 12 月 2 日	
博士後期課程退学日	年 月 日	

## 論文審査及び最終試験結果の要旨

本論文は、地域が持つ歴史と伝統を生かした都市の夜間景観照明の計画に、照明デザイナーが専門家として関わることの意味と意義を社会実験の実践を通して考察し明らかにすることを目的としている。

本論文の背景を枕草子の四季を引用して、光に対する日本人の繊細で情緒的な感性を振り返り、この日本人の光に対する美意識が夜間景観照明デザインの基になること、そしてそのデザインには、国、地域の気候や文化の違い等の様々な構成要因を考慮することの重要性を述べた。その上で、これらを照明デザインとして具体化する中に照明デザイナーが専門家としての役割を果たすことが求められていることを論じた。

まず、照明デザインの基本設計から実施設計へのプロセスとその手法論をまとめ、デザイナーに求められる資質を述べた。さらに、照明デザインの中でも計画内容が多岐に渡り、熟考した計画が必要である夜間景観照明について、その構造を整理し、点と線と面のアプローチから導き出す手法や、透過光、発光、投光等の景観照明の要素からなるコンセプトの導き方を示した。夜間景観照明形成のアプローチ手法として、現状調査や地域の特性に応じて社会実験を行いながら計画を進める方法や、他の業種や地域住民との連携を図りながら進める方法など6つの解き方を示し、その中からそれぞれの都市に合う最適なアプローチで進めることの重要性を指摘した。

これら6つのアプローチを基本的な考え方として2つの夜間景観照明デザインの実践がなされた。北九州市小倉都心地区で行った社会実験は、景観照明ガイドライン策定の調査と検討会方式で実施され、照明デザイナーがケーススタディを多く示す手法が用いられた。実現された照明デザインに対する評価から、歴史的景観においては芸術要素の高い印象が求められ、演出に直結する「制限の意図」と、周辺への影響を直接的に抑える「制限手法」を明確にすることにより、照明デザイナーが意図した照明効果が得られることを明らかにした。

地方都市である宮崎県における社会実験では、地域住民を中心とした委員会が照明デザイナーとともに夜間景観照明計画の検証と普及を進める手法が用いられた。その結果、地域らしさが明確になり、独自性のある照明計画に繋がることになった。生活や地域主義の照明観を持ち、地域住民とともに作り上げる生活原点主義を持った照明デザイナーが求められることが確認された。

最後に、照明デザイナーが専門家として更なる向上を目指すためには、照明デザイン賞など積極的な外部評価を得ることの重要性と、持続可能な開発目標を社会と共有しながら未来の展望を持つことの必要性を導いた。

歴史と伝統に基づく都市の夜間景観照明の実践を通して、経済性、効率、明るさや機能効果を安全と防犯面を含めて考えるだけでなく、文化性、その演出や雰囲気づくりを考える環境演出の二面から総合的に計画された照明環境により、地球環境に優しく魅力ある夜間景観を演出できる可能性を導き出した点は高く評価できる。社会実験を通して夜間景観照明に関して照明デザイナーが専門家として関わる事の意味と意義を明らかにした点は、これからの照明デザイン界に大きな影響を及ぼすと考えられる。そして、照明デザインには「時代に対する先進性」とその「デザインの卓越性」が必須である事とともに、照明デザイナーにはそのデザインに対する責務と権利を確立することが求められる事を示唆したことは、極めて意義深い。

以上より、本論文は博士（人間環境科学）の学位授与に十分に値する。